

酒匂川で観察されたマガモとカルガモの自然交雑

室 伏 友 三

A Natural hybridization between Mallard and Spotbill Duck

Observed in Sakawa-Gawa, Kanagawa Prefecture

Yuzo MUROFUSHI

1981年12月から1982年3月まで、酒匂川飯泉取水堰を中心とする地域に3羽のマガモ (*Anas platyrhynchos*) 雄とカルガモ (*Anas poecilorhyncha*) 雌と思われる2羽との群形成が観察されたが、このうちのマガモ雄とカルガモ雌が1月頃から群から離れ、2羽で行動するようになった。継続観察の結果、1982年1月29日の日昼アシ原の繁った静かな水面で第1回の交尾が目撃された。この時は1度だけの交尾で泳ぎ去ってしまったが、2月2日午後2時頃には2度の交尾が行なわれ、図1~3は、その2回目の交尾を撮影したものである。一連の交尾行動は、ヨーロッパ産マガモ同志の交尾行動 (Cramp and Simmons, 1977) とあまり変わらなかった。

1982年11月19日、この自然交雑の結果生まれたと思われる交雑個体(雄)を発見し、約ケ3月間観察を続けた。この個体は常に、カルガモの群約50羽と一緒に行動し、マガモの群には、混じらなかった。しかし群の真中にいる時は、カルガモからやや距離をおき、群の端にいる時も単独でいることが多かった。この個体はカルガモの群の中にも、大きさ、羽色から直ちに個体識別ができるほど目立つ存在であったが、前部から見るとカルガモと変りなく見え、特に、座り込んでしまうとカルガモとの識別は困難であった。

全体的な羽色は、カルガモより淡色でパフ色が強く特に顔と前胸部は明るいパフ色を呈し、眉斑は不明瞭でカルガモのようにクリーム白色ではなく、又カルガモにある暗色の顎線を欠いている。嘴は、カルガモとほとんど変わりなく、黒色で先端は橙黄色であった。脚もほとんど変わりなく、橙黄色であった。以上のように全体の羽色はカルガモに近いものであったが、上尾筒の羽毛はマガモ雄のように巻き上っている(図4)。

採餌行動、遊泳などは、カルガモと同様であり、飛翔は飛び立つ時やや重量感があるが、迅速であり、群飛では常に先頭の位置を占めていた。

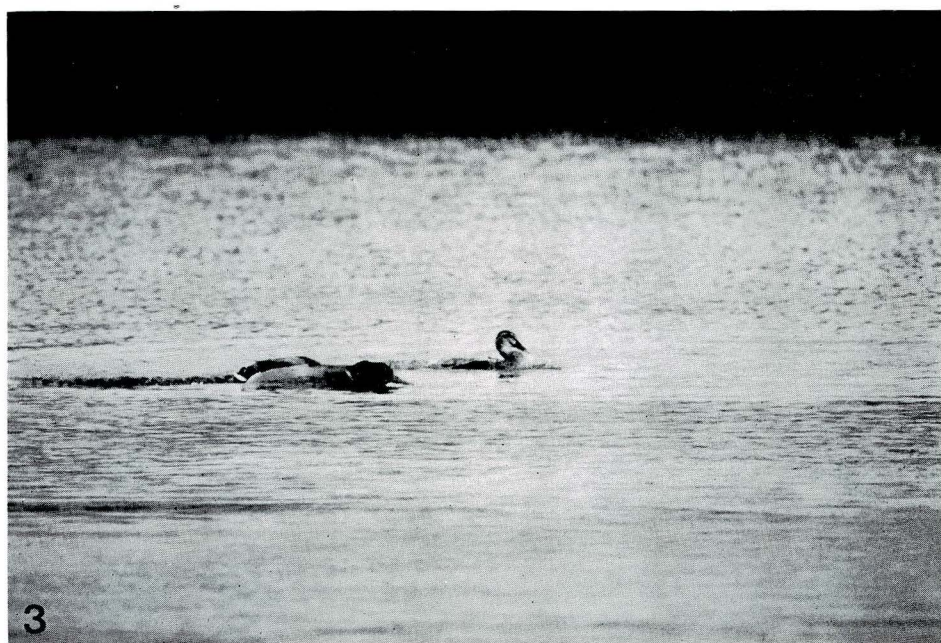
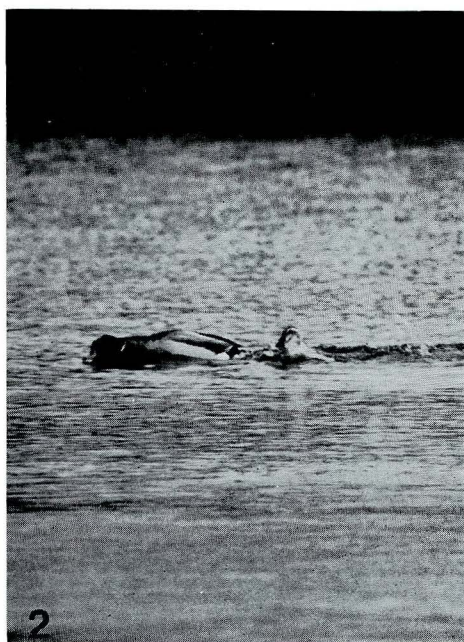
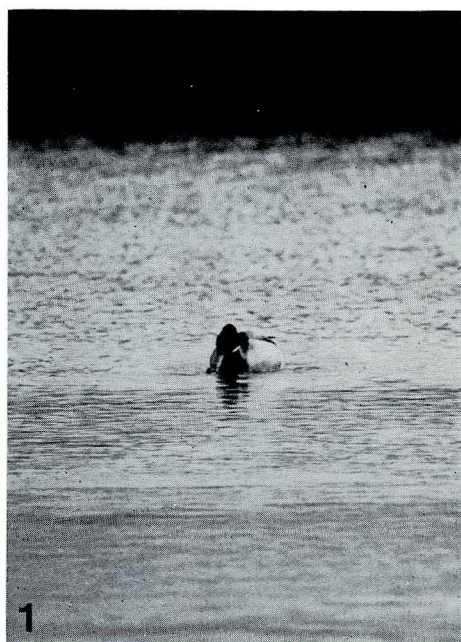
調査地域では近年になって夏期に2~3羽ほどのマガモの滞在がみられ、1978年からはほぼ毎年夏期に観察されている。

また、他の調査地である箱根芦の湖上でも1982年5月と1983年8月に、カルガモとマガモ雄のつがいが観察、撮影されている。

文 献

CRAMP, S. and K. E. L. SIMMONS 1977 The bird of the western Palearctic. 1. Oxford.

(室伏友三：箱根町立明星中学校)



図一1：マガモ雄とカルガモ雌の交尾（カルガモ雌の体は水中にほとんど没している）
 2：交尾終了直後（マガモ雄は交尾直後向って左方向へ首を延ばし体を平らにして泳ぐ）
 3：交尾終了後マガモ雄は、体を平らにし、首を延ばして、図一2とは反対の方向へ泳ぐ、雌のカルガモは水浴の動作をとる。



図一４：マガモとカルガモの交雑種とみられる個体（中央）とカルガモ（左右）